議員（中野　一郎）

　お早うございます。

７番、中野 一郎でございます。よろしくお願いします。

次の３点について質問致します

１．老人クラブの在り方について

２．闇バイト等から町民を守る対策について

３．河川遡上津波対策について

以上３点についてお伺い致します。

まず１点目.老人クラブの在り方についてです。

老人クラブが行う活動は「老人福祉法」において、「老人福祉増進のための事業」として位置づけられています。

老人福祉法第13条には、「地方公共団体は、老人の心身の健康の保持に資するための教養講座、レクリエーションその他広く老人が自主的かつ積極的に参加することができる事業を実施するように努めなければならない。」

2 項には、「地方公共団体は、老人の福祉を増進することを目的とする事業の振興を図るとともに老人クラブその他当該事業を行う者に対して、適当な援助をするように努めなければならない。」と定められています。

全国に８万5,000以上の数がある「老人クラブ」は高齢者を会員として健康づくりのためのスポーツや社会参加などの活動を行う、地域を基盤とした自主的な組織です。

会員数は、1998 年の 887 万人をピークに、2022 年は 438 万人と大きく減少しています。65 歳以上の高齢者人口は、1998 年の 2,051 万人から、2024 年９月末には 3,624 万人（高齢化率は 29.3%）と大きく増えているので、一見すると不思議に感じます。

老人クラブに加入している人の割合は 43%から 12%にまで激減している訳ですが、その理由は何でしょうか。

第１に、高齢者が「少数派」ではなくなったことです。1998 年の高齢化率（総人口に対する高齢者の割合）は 16%でしたが、2022 年には 29%。高齢者は少数派ではなくなりました。

いつも若い年代の人たちの中で暮らしていれば、「たまには年寄りだけで集まって話したり、楽しんだりしようか」と思うでしょうが、今は、外に出ればいつでも同世代、お年寄りがいるような状態ですから、わざわざ集まる動機が生まれませんし、その必要もないような状態です。

第２に、地域限定の閉じた集まりであることが挙げられます。老人クラブ連合会のホームページには、「日常的に声を掛け合い、歩いて集まることの出来る小地域の範囲で組織しています。クラブの規模は、おおむね 30 名から 100 名を標準としています。」と記載されていますが、昔からの顔見知り同士が昔からの関係そのままに集まっている状態が想像出来ます。

先輩・後輩や上下の関係も存在しているかも知れません。そこにある硬直的な人間関係が心理的なハードルとなって、入会する人を減らしているように感じます。
そして、第3に、高齢者を対象とした様々なサービスが充実してきて、老人クラブで企画・実施されるものとは、その選択肢の幅にもレベルにもかなりの差があることです。スポーツ、文化・教養、趣味といった多様な講座やイベントを高齢者大学校や文化センター、行政、デイサービス、その他様々な団体や企業が提供していますが、それを仕事として取り組んでいる人たちの企画力に、老人クラブの手作りが太刀打ち出来ないのは当然だと思います。
人と人との繋がりに対する肯定的な感覚のことを「コミュニティ感覚」と呼んで「他者との類似性の知覚、他者との相互依存関係の承認、他者が期待するものを与えたり自分が期待するものを他者から得たりすることによって相互依存関係を進んで維持しようとする気持ち、自分は、ある大きな依存可能な安定した構造の一部分であるという感覚」とコミュニティ感覚は定義されています。
この観点から老人クラブを見ると、まず「他者類似性」は、「高齢者であること」と「その地域に住んでいること」という2つしかありません。それはまた、外形的なものにすぎません。
一方で、例えば高齢者大学のような所では、「歴史好き」など趣味や関心が共通しており、学びたいという欲求にも類似性があります。それは、外形的ではなく内面の類似性であり、そのため、遠くからでもわざわざ通ってくる人が多いのが実例です。
次に「他者との相互依存的関係」では、地域で長く暮らしてきた中で出来た先輩・後輩関係や上下関係がありそうな老人クラブに比べて、高齢者大学では講師やリーダーの前では皆「受講生」という同じ立場になって教え合う、助け合う、褒め合うといった相互依存の関係が出来やすくなっています。
そして、その心地よい相互依存関係を維持しようと努め、その場の発展にも協力的な姿勢を持つようになってきます。
実際、学びの場でもスポーツ活動やサークルでも目的や趣味・関心を同じくして集まった高齢者の方々の言動は、とても規範的です。コミュニティ感覚に溢れている状態と思います。
私の地元の南鴨では、老人クラブが止む無く、令和6年の4月に解散してしまいました。もう、今から入るにも入れない状態です。
3 年前には、本町の老人クラブ連合会から脱退していましたが、老人クラブとしては存続していました。その時、60代の会員はいませんでした。コロナ禍で、この4年くらいは、慰安の旅行や食事会なども無くて、何も活動としては無かったようでした。
私は、会員では無かったので、解散に至る経過の詳細は分かりかねます。
老人クラブには60歳から加入出来ますが、60歳から入る人はまずいないと思います。
年金をもらうのが65歳以降の人なので、まだまだ仕事をしなければならないのに、老

人会の活動どころではないと思います。仕事に行かないと収入がないので生活出来ないのですから、それもごもっともだと思います。
そこで、次の４点についてお伺いします。
まず１番目、本町の老人クラブ数の推移、老人クラブ員の年度推移について、過去５年程度についてお伺いします。

高齢者保険課長（松浦　久美子）

お早うございます。
中野議員の本町の老人クラブ数とクラブ員数の推移についてのご質問に答弁をさせて頂きます。
多度津町老人クラブ連合会の総会資料によると、老人クラブ数と会員数は、令和2年度は18クラブ961名、令和3年度は18クラブ897名、令和4年度は16クラブ799名、令和5年度は16クラブ775名、令和6年度は15クラブ701名となっております。以上、答弁とさせて頂きます。

議員（中野　一郎）

次に老人クラブの会員数の減少、老人クラブ連合会への役員の成り手不足等の課題がありますが、本町としても老人クラブ活動事業として補助金を出していますが、現状と課題について、事業の内容も含めてお伺いします。

高齢者保険課長（松浦　久美子）

中野議員の老人クラブの現状と課題についてのご質問に答弁をさせて頂きます。
多度津町老人クラブ連合会によると、毎年、新規加入者が数名程度に対し、数十名（およそ24名～98名）の会員が自然減少し、全体的に会員数が減少していることにより活動資金が不足し、担い手である60歳台の会員が29名と少なく、役員の後継者も不足し、運営が難しい状況であるそうです。
また、老人クラブの行事がマンネリ化していることに併せて、近年、働く高齢者の増加や趣味の多様化、民間におけるサービスなどが充実してきたことにより、行事の参加者が減少し、老人クラブ入会のメリットや魅力が低下していることが課題であると聞いております。以上、答弁とさせて頂きます。

議員（中野　一郎）

次に本町が行っている老人クラブへの支援・指導の現状と今後の施策についてお伺いします。イメージ出来る具体的説明が出来たらお願いします。

高齢者保険課長（松浦　久美子）

中野議員の本町が行っている老人クラブへの支援・指導の現状と今後の施策についてのご質問に答弁をさせて頂きます。
現在、町では、多度津町老人クラブ連合会や地域の単位クラブを運営するための補助金の交付や高齢者の交流活動や生きがい、健康づくり事業として、年に1回、町民会館で行われる催し物の観覧チケットの購入支援、連合会が開催する介護保険制度や健康

づくりに関する講演会への講師派遣などを行っています。また、令和6年度は、町民会館での観覧の代わりに多度津町老人クラブ連合会創立60周年記念式典の開催を支援しました。

今後、地域の単位クラブにおいても健康相談や健康教室、介護保険制度の説明や地域包括支援センターが行っているチョイキタ体操の講習会、認知症サポーター養成講座など、要望があれば講師を派遣し、老人クラブの活性化に向けて支援することが出来ますので、ご活用下さったらと思います。以上、答弁とさせて頂きます。

議員（中野　一郎）

漫画「サザエさん」のお父さん、磯野波平さんは頭に毛が 1 本ですが設定年齢は 54 歳です。歌手の福山雅治さんは 55 歳です。

昭和と令和では年齢の感覚差・実際差がありすぎます。2025 年に 60 歳になる有名人には、沢口靖子（女優）、本木雅弘（俳優）、古田敦也（野球）がいます。今の 60 代の人で、老人と呼ばれたい人はいるでしょうか。いないと思います。そしたら、老人クラブという名称を変えたらどうでしょうか、町長にお伺いします。

町長（丸尾　幸雄）

中野議員の老人クラブという名称の変更についてのご質問に答弁をさせて頂きます。

老人クラブの名前のいわれは、公益社団法人 全国老人クラブ連合会のホームページによると、クラブづくりを推進していた人たちの間でテキストとして読まれていた英国老人福祉委員会発行の「老人クラブ－新設と経営の手引き」に由来しており、香川県老人クラブ連合会においては、「ぼちぼちクラブ香川」の愛称で活動しています。多度津町老人クラブ連合会の地域の単位クラブにおいても「福寿会」「天寿会」「白寿会」などのクラブ名で活動しており、会員の増強や減少に歯止めをかけるために多度津町老人クラブ連合会も愛称をつけ、イメージチェンジを図ることは、クラブの活性化のための良いアイデアと思います。

今後、多度津町老人クラブ連合会にそのアイデアを提供し、活性化に向けて支援してまいります。以上、答弁とさせて頂きます。

議員（中野　一郎）

現在、日本では 65 歳以上を高齢者、そのうち 65 歳から 74 歳を前期高齢者、75 歳以上は後期高齢者と定義しています。自分が今 65 歳を超える年齢になった今、子どもの頃にイメージしていたギャップに今さらながら自分で驚いています。10 歳以上の開きがあるのではないかと感じています。

また、今、議員として、まだ仕事をしているとは夢にも思っていませんでした。悠々自適に隠居生活をしているものと想像していました。

ところが、現実は今も変わらず、議員の活動として忙しい毎日を送っています。定年年齢の引上げや定年後の再雇用が進んでおり、60 代 70 代はまだまだ現役です。

一方、生産年齢人口 15 歳から 64 歳は、1995 年をピークに減少しており、労働力不足による社会的経済的課題の深刻化が懸念されています。
今後歴の年齢と生物学的年齢のギャップがさらに広まり、老人高齢者、生産年齢の定義など定義が変わっていくことが本格化すると思います。
ちなみに、先ほどもお話ししました漫画のサザエさんの連載が始まったのが 1946 年、戦後間もない頃私はまだ生まれていません。磯野浪平さんの 54 歳は、その頃はそれで時代にマッチしていたのです。今の磯野浪平さんははるかに 70 歳を超えていると思います。ということで、これからも老人クラブが継続していけるように今後も支援をよろしくお願いいたします。
そしたら次に、2 つ目の質問に移ります。「闇バイト」などから町民を守る対策についてです。
高額報酬を謳い交流サイト（ＳＮＳ）で犯罪の実行役を募る「闇バイト」が全国で問題となる中、香川県でも特殊詐欺に加担する 10 代から 20 代の若者の摘発が目立っています。
県警は「闇バイトにいったん応募すると抜け出すのは困難」と警鐘を鳴らし、若者向けの啓発など対策を強化しています。
令和 6 年 3 月上旬、高松地裁の法廷で、生活費の足しにしようと「闇バイト」に応募し、特殊詐欺の実行犯として高齢女性から現金数百万円をだまし取った罪に問われ、有罪判決を言い渡された高松市の女性（22 歳）は裁判官に向かって「後悔している。私がとった行動で被害者の方とそのご家族、また、夫や子ども、両親らにもたくさんの迷惑をかけた。本当に申し訳なく思っている」と話し、再犯しないこと誓いました。
県警によると、ＳＮＳを使った募集で、高額報酬、内容不明瞭、経験不問の 3 つが揃うと闇バイトの危険性が高い。具体的な謳い文句は「高額バイト」「短時間で」「手軽に」「簡単に」等が多いようです。
応募すると、相手とＳＮＳでやり取りをする中で自身や家族の個人情報を握られます。その後の仕事に犯罪と分かり止めようとしても「家族に危害を加える」と脅迫されて後戻り出来なくなる。高松地裁で有罪判決を受けた女性も「断れば家族がどうなるかわからない」と脅され、犯行に及んだと述べています。
県警が令和 5 年から令和 6 年 3 月までに摘発した特殊詐欺事件では、「闇バイト」をきっかけに犯罪に手を染めた若者が目立ち、中には高校生もいました。県警サイバー犯罪対策課の担当者は「逮捕されるまで犯罪組織から使われ、使い捨てにされる」と指摘しています。
対策として県警は、学校への出前講座や非行防止教室、地域の防犯教室を充実させ、闇バイトの危険性の周知に努め、「犯罪組織から抜け出せないと感じたら一人で悩まず、警察に相談をして下さい。」と啓発しています。「闇バイト」は日本の治安を脅かす重大な事案であり、新たな被害者・加害者を生まないために政府や警察は対策に万

全を期す必要がありますが、自治体においても対策が必要です。
そこで、次の４点についてお伺いします。
まず１つ目、「闇バイト」募集の特徴についてお伺いします。
総務課長（谷口　賢司）
お早うございます。
中野議員の「闇バイト」募集の特徴についてのご質問に答弁をさせて頂きます。
「闇バイト」については、事件の手口、背景などの詳細が連日報道され、誰もが「闇バイト」による犯罪の被害者や実行者になり得る重大な社会問題です。
警察によりますと「闇バイト」募集の特徴としては、「Ｘ」旧ツイッター等のＳＮＳで「高額」「即日即金」「ホワイト案件」などの言葉で、簡単に高収入を得られるアルバイトのように見せかけ、犯罪実行者を募集する。
さらに「シグナル」「テレグラム」といった匿秘性の高いアプリに誘導し、やりとりの中で個人情報を送信させ、個人情報を盾に脅迫し、犯罪組織から抜け出せないよう監視を行い、犯罪を実行させるのが特徴とのことです。また、今までは、大人の一般の方が犯罪と知らずに「闇バイト」に応募してしまうケースが多かったのですが、近年では、10代の若年層が高額な報酬を目的に応募したり、友人やＳＮＳで知り合った相手から誘われたりして、犯罪に手を染めるなど「闇バイト」に応募する人の低年齢化が目立ってきているとのことです。以上、答弁とさせて頂きます。
議員（中野　一郎）
次に「闇バイト」に応募してしまった人の対応についてお伺いします。
総務課長（谷口　賢司）
中野議員の「闇バイト」に応募してしまった人の対応についてのご質問に答弁をさせて頂きます。
県警は、ホームページで犯罪実行者募集情報いわゆる「闇バイト」に興味を持っている人や応募してしまった人に対し、「『闇バイト』はアルバイトではなく、紛れもない犯罪行為です。犯罪者グループは約束の報酬を元から払うつもりはなく、応募者は『使い捨て』要員です。」、「少しでも怪しいと思う募集情報には一切応募しないで下さい。」と呼びかけ、さらに犯罪と分かって「闇バイト」を行っている人に対しては、「知らなかったという言い訳は警察には通用しません。警察は必ず捕まえます。逃げることは出来ません。強盗を指示されて、人を負傷させた時は『無期又は6年以上の懲役』（強盗致傷罪）、人を死亡させた時は『死刑又は無期懲役』（強盗致死罪）となります。」と訴えるなど、「闇バイト」に手を出させないための対策に取り組んでいます。
また、警察相談窓口電話＃9110を案内し、いつの段階であっても警察に相談することが『あなた』や家族を救うことになります。警察は相談を受けた『あなた』や『あなたの家族』を確実に保護します。と警察に相談することも呼びかけています。
そのほか、「闇バイト」に応募してしまう主たる動機が貧困や失業であることから、厚

生労働省のホームページには仕事探しの相談窓口であるハローワークの情報や生活貧困の相談窓口である自立相談支援機関の多度津町社会福祉協議会の情報を掲載するなど自立支援の情報を提供しています。

「闇バイト」に応募してしまった人からの相談は、今のところ本町にはありませんが、相談があれば、警察と協力し、必要に応じて自立支援の窓口を案内するなど適切に対応したいと考えています。以上、答弁とさせて頂きます。

議員（中野　一郎）

次に、防犯ボランティアによるパトロール強化についてお伺いします。

総務課長（谷口　賢司）

中野議員の防犯ボランティアによるパトロール強化についてのご質問に答弁をさせて頂きます。

本町における防犯活動については、警察や地域安全推進員等の関係団体等と連携し、月に1回、「闇バイト」に関連した特殊詐欺等の犯罪被害防止を呼びかけるキャンペーンを実施しています。

本年1月16日に町内商業施設内で実施したキャンペーンでは、多度津高等学校の生徒が作成したＳＮＳを利用した特殊詐欺等被害防止の啓発リーフレットを同高校生、丸亀警察署及び本町の職員が買い物客に手渡しながら、特殊詐欺等の被害防止を呼びかけました。

また、町広報誌、ポスター、町ホームページやデジタルサイネージなどを利用して特殊詐欺等被害防止の周知・啓発を行うとともに自治会などから防犯教室の開催についての相談があれば、警察に協力を依頼しています。

現在、町内には4つの自主防犯ボランティアグループに通勤・通学時間帯を中心に「ながら見守り活動」をはじめとする地域の防犯活動に尽力して頂いています。

互いが犯罪に巻き込まれない・互いを見守る意識を持つことが地域の防犯力を高め、犯罪から地域を守ることに繋がっていくものと考えています。

本町は、これからも警察や関係団体と連携しながら、町民が犯罪被害に遭わない、犯罪を実行させないためのキャンペーンなどの周知活動等を継続して実施し、更なる町民の防犯意識の醸成に努め、誰もが安全・安心に暮らせる地域づくりを推進していきます。以上、答弁とさせて頂きます。

議員（中野　一郎）

今の答弁頂いたことについての再質問ですが、今の答弁の中で、闇バイトに関連して警察との連携の中で、特殊詐欺等の防犯犯罪被害の未然防止に力を尽くした方々の表彰のニュースとかが出ることがあるんですが、本町で未然防止に尽力したような事例があったら、お伺いします。

総務課長（谷口　賢司）

中野議員の再質問に答弁をさせて頂きます。

丸亀警察署によりますと令和6年1月31日現在の情報にはなりますが、本町では本年度は3件の表彰があったとのことです。月別では、4月に1件、5月に2件です。
いずれも町内のコンビニエンスストアにおいて、レジ係の店員が詐欺に気づいて、早期に警察に通報するなどして犯罪被害を未然に防ぐことが出来たということでございました。
なお、令和4年度には1件、令和5年度には0件であったとのことです。
また、丸亀署管内におきましては、令和4年度が7件、令和5年度が6件、令和6年度が16件の表彰があったということでございます。以上、答弁とさせて頂きます。

議員（中野　一郎）

次に中学校での「闇バイト」防止講習会開催や指導等について教育長にお伺いします。

教育長（三木　信行）

中野議員の中学校での「闇バイト」防止講習会開催や指導についてのご質問に答弁をさせて頂きます。
中学校では、県からの文書等を基に担任から話をしたり、生徒指導主事から話をしたりするなど注意喚起をしています。
ＳＮＳを通じて「闇バイト」に繋がることが多いことから、学年の実態に合わせてＳＮＳの危険性についても指導しています。
また、県教育委員会主催の「13歳の自律教室」や「非行防止教室」では、警察官に来て頂き、ＳＮＳも含めたネットトラブルについて具体的な事例を基にお話を頂いています。インターネットの危険性について再確認する中で、「闇バイト」についても重点化して事例を挙げて注意喚起をしています。
さらに、各自で気を付けたいことについて考えるなど、安全利用についての意識を高め、未然防止に努めています。以上、答弁とさせて頂きます。

議員（中野　一郎）

これだけ毎日ＳＮＳやメディアに出ることがないぐらいの「闇バイト」。騙す人も騙される人も人間なんです。令和７年２月７日の四国新聞に被害総額、最悪の 2,000 億円、特殊ＳＮＳ型投資交流サイト、ＳＮＳを介した投資詐欺、恋愛感情に乗じたロマンス詐欺、特殊詐欺の被害総額が、2024 年は全国で前年比 2.19 倍の約 2,000 億円に上回ったことが、警察庁のまとめで分かりました。
一方、香川県では 2024 年の香川県内の刑法犯認知件数は、前年比 97 件増の 5,858 件で、3 年連続増加したことが県警のまとめで分かりました。
交流サイトＳＮＳを悪用した投資詐欺と恋愛感情に乗じたロマンス詐欺が急増しており、ロマンス詐欺は 90 件、被害総額 7 億 4,100 万円で、件数・額とも中四国で最多とありました。
要するにそういう悪い人には接近しない。接近されない。隙を作らない。ことが大切

です。今までモテたことがない人がそもそもモテる訳がないんです。この世の中そんなうまい棚ボタ話はある訳はないです。今、社会的に闇バイトという用語が使用されていますが、これはアルバイトではなく犯罪です。その実態は犯行グループが、切捨て要員の実行役を手広く募集するもので、これに関わることで児童にどのような危険が及ぶかについて、今後も警察や関係機関と連携して児童に伝えていくことが重要であると思いますので、今後ともよろしくお願い致します。

それでは次、3番目の質問に移ります。河川遡上津波対策についてです。

14年前の今日3月13日に東日本大震災が発生しました。今日ですね。あれ、ちょっと間違えました。済みません。えらい勘違いした。原稿戻って。

東日本大震災では、沿岸域を襲った津波により未曽有の大災害を生じました。海岸のみならず、河川を遡上し流下した津波（以下、河川津波という）が河川堤防を越えて沿岸地域に甚大な被害をもたらしました。

現在、沿岸域における津波防災の議論が各方面でなされていますが、沿岸域における津波防災を考える上で、海岸での防御と一体となった河川津波への対策が重要であることを認識する必要があります。特に河川はまちづくりと密接に関連した公共空間であり、津波防御の面からも、まちづくりの面からも、河川は津波防災まちづくりに重要な役割を有しています。

そこで、次の5点についてお伺いします。

まず1点目、香川県において河川遡上津波の津波浸水シミュレーションは出来ていますか、お伺いします。

建設課長（三谷　勝則）

　中野議員の香川県おける河川遡上津波の津波浸水シミュレーションについてのご質問に答弁をさせて頂きます。

県では「香川県地震・津波対策海岸堤防等整備計画（第4回変更）」を令和6年3月に公表しています。当該計画については海岸堤防や河川堤防が津波に対して堤防に作用する力に抵抗出来るような対策に合わせ、液状化沈下や地震動により倒壊することがないよう対策を講ずるなど地震・津波対策を効果的に推進するため、平成27年3月に策定されたもので、その後は、整備状況及び事業費の再精査等の変更を行いながら県が整備を進めています。

議員ご質問の河川への遡上津波については、この計画において海岸の湾の形状などの自然条件、文献や被災履歴の過去の実績津波高などにより地域海岸を区分設定し、河川ごとに津波遡上シミュレーションを行い、最大津波遡上水位から各河川の堤防等整備高を設定しています。

また、堤防等の津波に対する耐力や液状化に対する危険度、施設の高さや構造形式による施設の状況や背後地の浸水危険度や被災者数及び施設等の背後地の状況を評価し、整備の優先順位を設定の上、計画的に整備を進めて行くことになっています。以

上、答弁とさせて頂きます。

議員（中野　一郎）

次に多度津町には桜川水門と弘田川には弘田川水門がありますが、水門がある河川と、ない河川とでは、津波防御方式としてどう異なりますか、お伺いします。

建設課長（三谷　勝則）

中野議員の桜川、弘田川には水門がありますが、水門のある川と、ない川とでは、津波防御方式は異なるかについてのご質問に答弁をさせて頂きます。

「香川県地震・津波対策海岸堤防等整備計画」では、河川堤防においても海岸堤防と同様に堤防の高さを確保するための対策を行うこととされております。津波防御の方式として水門がある河川では水門で津波の遡上を止めることとし、水門の耐震補強とその下流の堤防等の耐震補強や嵩上げによる「津波水門方式」と水門がない河川では、津波の遡上に対する対策が必要なところまでの堤防等の耐震補強や嵩上げによる「堤防方式」の２つの対策が計画されています。

このことから、本町の桜川と弘田川については、防潮水門が設置されておりますので「津波水門方式」の対策となります。以上、答弁とさせて頂きます。

議員（中野　一郎）

次に近隣の金倉川と土器川には水門がありませんが、どのような被害が想定されますか、お伺いします。

建設課長（三谷　勝則）

中野議員の近隣の金倉川、土器川には水門はありませんが、どのような被害が想定されるかについてのご質問に答弁をさせて頂きます。

水門のない河川では津波遡上シミュレーションの結果の津波水位から堤防の整備高を設定し、堤防等の嵩上げや耐震補強などの対策を計画しております。

想定される災害については、現状の河川堤防高より遡上津波の水位が上回る区間や地震の影響で液状化、地盤沈下など構造形式が地震動に対して耐力不足で堤防が倒壊した場合には、背後地への浸水被害が考えられます。

県に確認したところ金倉川の河口部に近い箇所で一部堤防高より津波の遡上水位が上回る箇所があることから、浸水被害が想定されております。

金倉川は本町に近接した河川ですので、本町にも浸水などの影響が想定されております。以上、答弁とさせて頂きます。

議員（中野　一郎）

直近の一番の大地震、昭和の南海大地震（M8.0）と同程度以上の地震対策は出来ているかお伺いします。

昭和 21 年（1946 年）12 月 21 日、昭和南海大地震により仲多度郡一帯の沈下量は 37～38 ㎝でありました。

多度津町では地震により、倒壊家屋 10 戸、半壊家屋 50 戸の被害のほか、沈下及び高

潮により西防波堤580m及び桟橋の被害、桜川流域で家屋350戸、水田30町歩の浸水被害が出ました。

この時、多度津町で亡くなられた方はいなかったようです。これと同じ地震が発生した場合、今の堤防等の防災システムで被害は食い止められるでしょうか、お伺いします。

建設課長（三谷　勝則）

中野議員の昭和の南海大地震と同程度以上の耐震対策は出来ているかについてのご質問に答弁をさせて頂きます。

議員ご質問の1946年に発生した昭和南海地震は和歌山県南方沖78㎞を震源とし、房総半島から九州に至る海岸に津波が発生した地震です。県内では地震動による家屋の全壊、半壊などの被害が顕著で、本町や高松市では震度5を観測しています。また、地盤の軟弱な海沿い、川沿い及び埋め立て地では地盤が沈下した箇所も多くあり、高松港では最大津波高42ｃｍを観測しています。

ご質問の同程度以上の地震対策については、昭和南海地震以降は堤防や水門等の施設整備を実施しており、その後については県内で震度5以上を観測したのは2回で、本町では震度4が観測されたものが最大でありました。当時は大きな被害として報告されたものはなく、現在は更に被害規模が大きいとされる南海トラフ大地震を想定とした地震津波対策・海岸堤防等整備計画において県が平成27年度より対策を進めており、同程度の地震で甚大な被害が発生する可能性は低いと考えますが、引き続き、南海トラフ巨大地震等への早急な災害対策に県と連携を図り、取り組んでまいります。以上、答弁とさせて頂きます。

議員（中野　一郎）

次に今後の河川遡上津波について、どのように対策を進めていくかについてお伺いします。

建設課長（三谷　勝則）

中野議員の今後の河川遡上津波について、どのように対策を進めていくかについてのご質問に答弁をさせて頂きます。

地震発生等による河川の津波遡上への対策については、河川管理者の県が「香川県地震・津波対策海岸堤防等整備計画」により、平成27年度より河川堤防や海岸堤防などの地震津波対策を3期に分けて効率的に整備を推進すめるため、早急に対策をする必要があるなど優先順位を決定して施設整備を行っています。

施設整備については、概ね10年間を整備目標としたⅠ期とその後の10～30年間を整備目標としたⅡ期・Ⅲ期に分けた計画として進めており、令和7年度より概ね10年間を整備目標としたⅡ期目の実施計画になっています。

本町の桜川と弘田川については、桜川関連で排水機場水門は調査により耐震性に課題があることから、整備計画のⅡ期目で耐震対策を予定しており、弘田川関連では水門

の耐震性などの調査、施設整備についても整備計画のⅡ期目に予定しています。また、本町への浸水被害など影響が想定される金倉川関連については、課題のある堤防等の耐震対策は整備計画のⅡ期目に予定されています。

今後は、事業主体である河川管理者の県と連携を図り、地震津波対策の完成に向け、県への要望、協力に努めてまいります。以上、答弁とさせて頂きます。

議員（中野　一郎）

再質問で、金倉川関連の 2 期目の整備計画というか耐震対策で具体的にどういうものが予定されているか、分かる範囲で答えられますか。お願いします。

建設課長（三谷　勝則）

中野議員の再質問に答弁をさせて頂きます。

丸亀市の金倉川の遡上津波の計画については、県の確認時において先ほど答弁をさせて頂きましたが、地震津波対策の計画の 2 期目で実施ということです。河川の堤防高が予想されます津波高より低いことから、堤防の嵩上げをする整備内容になっているとお聞きしております。時期、改修方法及び、規模等はまだ決まっていないようですが、地震津波がいつ発生するかは分からない災害ですので、少しでも早い整備に努めたいということでお聞きしております。以上、答弁とさせて頂きます。

議員（中野　一郎）

有難うございます。

香川県は災害の少ない県ランキングというのを見ますと、滋賀県、佐賀県に次いで全国 3 位にランキングされています。南海トラフ地震の被害が予想されるエリアには位置していますが、瀬戸内海で大きな津波が起こる可能性は少なく、広範囲にわたる被害は少ないと予想されていますが、しかし、災害が少ない県でも油断は禁物。今世間では、今年の 2025 年の 7 月に大災難が発生するのではないかです。予言というか予想されていますが、起こるか起こらないか分かりません。

災害はいつか必ず起こると想定して、自分の命は自分で守るの気持ちで前もって自分が出来る防災用品とか、避難場所の確保とか、停電対策をしておくことが必要ではないかなと思います。絶対安全ということはないので、想定外はあると思いますので、各自が準備しておくことが必要ではないかなという風に思います。

以上で、私の質問を終わります。有難うございました。